



光琳・乾山合作 鏤絵椿図角皿



香合「乾山」巾着型花押

〔上図〕色絵『源氏物語』「橘姫」図香合

香合底面、染付（呉須）による銘「乾山・花押」である。乾山書を手本とした書体は、同手一連の作陶に当たった二代仁清の書銘ではないかと推考する。

乾山焼の二つの技法、御室焼仁清伝（高火度焼成）、押小路焼孫兵衛伝（低火度焼成）を代表する作品である。和漢の二様式に基づくが、色絵香合は素焼上に白化粧・鏤絵・染付（呉須）の装飾及び「乾山」銘と花押。本焼後、青・緑・紫・朽ち葉・錦彩の上絵付けを施し錦窯に入れ、完成させる。

光琳・乾山合作鏤絵角皿は押小路焼掛釉・絵具を用いて絵師の描く「本絵」に近づく工夫。金ハダに呉須を加えて「墨」と為し、黄土を用いて印の朱色とするが、「光琳法橋」寿型花押。讚には「宝珠買断春前景 宮粉粧成 雪裡花」とある。二作品は新出の乾山焼である。

